

# 術後胃癌

# XELOX療法レジメン

オキサリプラチン+ゼローダ

< 21日間隔・8コース >

G-26

総コース数

治療日		第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7~14日目	第15日目	第16~21日目	第22日目
治療内容											
検査	採血	○									○
診療	副作用の問診	○									○
	検査結果	○									○
治療中止基準	①WBC 3000未満 ②血小板 10万未満 ③発熱・CRP上昇 ④PS 2以上										
内服薬	ゼローダ錠2,000mg/m <sup>2</sup> /日	↓↓ (夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝)	休	↓↓ (朝・夕)
点滴	① 生食100ml +アロキシ0.75mg +デキサート 3.3mg×2A 点滴静注【30分】	○									○
	② 5%ブドウ糖500mL +オキサリプラチン(130mg/m <sup>2</sup> ) 点滴静注【2時間】	○									○
	③ 生理食塩水 ルートフラッシュ用(全開)	○									○

★ゼローダ錠：体表面積にあわせて、朝・夕食後30分以内に1日2回14日間連日経口投与し、7日間休薬

体表面積	1回服用量	減量段階1	減量段階2
1.36m <sup>2</sup> 未満	1,200mg (4錠)	900mg (3錠)	600mg (2錠)
1.36m <sup>2</sup> 以上1.41m <sup>2</sup> 未満	1,500mg (5錠)		
1.41m <sup>2</sup> 以上1.51m <sup>2</sup> 未満		1,200mg (4錠)	
1.51m <sup>2</sup> 以上1.66m <sup>2</sup> 未満			900mg (3錠)
1.66m <sup>2</sup> 以上1.81m <sup>2</sup> 未満	1,800mg (6錠)		
1.81m <sup>2</sup> 以上1.96m <sup>2</sup> 未満		1,500mg (5錠)	
1.96m <sup>2</sup> 以上2.11m <sup>2</sup> 未満	2,100mg (7錠)		1,200mg (4錠)
2.11m <sup>2</sup> 以上			

(減量基準) 血液毒性に対するゼローダとオキサリプラチンの減量基準

グレード	発現回数	ゼローダ	キサリプラチン
グレード3	1	減量段階1	100mg/m <sup>2</sup>
	2	減量段階1	85mg/m <sup>2</sup>
	3	減量段階2	中止
グレード4	1	投与中止or 減量段階2	投与中止or 85mg/m <sup>2</sup>

臨床的に問題となる血液毒性が認められた場合は、臨床症状を総合的に判断して、非血液毒性に対するゼローダとオキサリプラチンの減量基準

グレード	発現回数	ゼローダ	キサリプラチン
グレード2	1	変更なし	変更なし
	2	減量段階1	変更なし
	3	減量段階2	変更なし
グレード3	1	減量段階1	100mg/m <sup>2</sup>
	2	減量段階2	85mg/m <sup>2</sup>
グレード4	1	投与中止or 減量段階2	投与中止or 85mg/m <sup>2</sup>

## 看護のPoint!!

ゼローダで皮膚障害や下痢の可能性もある。持参薬にワーファリンがあれば主治医に報告（ゼローダとの相互作用あり）  
 オキサリプラチンによる過敏症症状に注意。呼吸困難感、かゆみ、発赤、皮疹など。  
 主治医に報告し、次回からファモチジン注とボラミン注の前投与を考慮する。（ガモファー錠と材料に錠でも可能）  
 オキサリプラチンによって末梢神経障害が起こりやすい。まずは冷たいものの接触を避ける。  
 末梢からオキサリプラチン投与時、血管痛あるかも。温めてあげたり投与時間をゆっくりしてあげる。